

令和7年度 事業報告

我が国の景気は、緩やかに回復しており、先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要があります。また、金融資本市場の変動の影響や米国の通商政策をめぐる動向などに注意する必要もあります。

このような状況の中、当協会は川崎港の振興発展に向けた諸事業に取り組み、市民に開かれた港づくりを中心に、更には港湾関係者の利便性の向上と福利厚生の実現を図り、川崎港の振興・発展に資する事業を積極的に推進してまいりました。

【公益目的事業－１】

——川崎港の国際競争力を強化し利用を促進する事業——

1. 港湾の国際競争力の強化のための港湾施設の整備促進及び運営の改善

・「利用しやすい川崎港づくり推進協議会」の運営に関する事業

関係官民19団体で組織する「利用しやすい川崎港づくり推進協議会」の事務局を川崎市港湾局と協力して運営した。各参加団体より提出された課題については、協議会の下部組織である「改善部会」で一元的に対応してきた。「改善部会」では、東扇島地区及び川崎港全般に関わる課題の解決に取り組み、その進捗状況を検討、確認する場として、7月17日、令和8年2月4日に改善部会小委員会を開催。進捗状況報告書の内容を精査した上で、8月4日、令和8年2月25日に改善部会を開催した。

また、令和8年3月25日には「利用しやすい川崎港づくり推進協議会（親会）」を開催し、「改善部会」より報告された事項について、最終確認を行った。

ア 第1回「改善部会」小委員会の開催

日 程 7月17日（木）

議 題 課題の進捗状況確認

1. 令和7年度新規課題アンケートに対する回答

2. 改善課題の進捗状況確認

（1）成果のあったあるいは現在実施中の事項

① コンテナ航路の充実（新規航路の開設）

② 港湾施設道路の安全確保（軽易な陥没についての即時対応、カーブミラーの設置）

③ 港湾施設（東扇島照明灯・接岸灯）⇒ 外貿4号岸壁背後の荷捌き地照明のLED化対応

④ 環境改善（東扇島島内の美化）

⇒ ごみ量の比較モデル実験の実施、一斉清掃の継続

⑤ 環境改善（公衆トイレ）⇒ 内貿30号トイレの内装改修設計の実施

（2）改善に向けて動きがあった事項

① 交通（トラック待機所）⇒ 荷待ちトラック待機所に関するアンケートの実施

イ 第1回「改善部会」

日 程 8月18日（月）

議 題

1. 新規検討課題について

2. その他

ウ 第2回「改善部会」小委員会の開催

日 程 令和8年2月4日（水）

議 題 課題の進捗状況確認

（1）改善課題の進捗状況確認

① 港湾施設（タグボート基地）⇒ 東扇島小型船だまりは令和5年度以降継続して工事

② 交通（違法駐車取締まり等）⇒ 荷待ちトラック待機所の活用を促し、東扇島東公園横の待機所については利用台数が増加傾向にある

③ 道路 ⇒ 道路の凹凸破損等がみられる

④ 環境改善 ⇒ 公衆トイレ

⑤ 交通 ⇒ トラック待機所

⑥ 港湾施設 ⇒ 荷捌き場の不足

⑦ 港湾施設 ⇒ 上屋（老朽化した上屋の改良、修繕）

⑧ 交通 ⇒ トラック待機所の有効活用

⑨ 交通 ⇒ 交通の利便性（国道357号線）

⑩ 港湾施設 ⇒ 千鳥町軽量施設へのトラック逆走

⑪ 交通 ⇒ 老朽化した橋梁の点検

（2）新規課題

（3）改善部会の開催

（4）その他

エ 第2回「改善部会」

日 程 令和8年2月25日（水）

議 題 1 課題の進捗状況確認

改善部会小委員会での議題確認

2 新規課題

3 その他

オ 令和7年度「利用しやすい川崎港づくり推進協議会」の開催

日 程 令和8年3月25日（水）

- 議 題 1 改善部会の活動状況、課題の進捗状況について
 2 新規課題
 3 その他

2. 貨物の集荷及び船舶の誘致活動

(1) 「川崎港戦略港湾推進協議会」に関する事業

「川崎港戦略港湾推進協議会」(平成23年9月設立)は、川崎市、川崎商工会議所、川崎港運協会、及び川崎港振興協会の4団体で構成され、コンテナターミナル利用の更なる拡大に向けた課題検討や施策の策定、集荷促進およびサービスレベルの向上を目指した活動を展開している。下部組織である2部会のうち、ポートセールス部会の事務局を当協会が担い、施設計画部会には委員として参画し、運営に深く関与した。

コンテナターミナルでの取扱数量については、令和2年度に初めて16万TEU超えを達成した。しかし、新型コロナウイルス感染症に端を発した世界的なコンテナ物流の混乱に加え、昨今の地政学的リスクの影響が継続。各船会社による航路スケジュールの調整(抜港)が相次いだ結果、主要顧客が東京港や横浜港へシフトせざるを得ない状況となり、令和3年度以降は4年連続で取扱数量が減少していた。こうした逆風の中、継続的な集荷活動が功を奏し、令和7年度は令和4年以降3年ぶりに10万TEUの大台を回復した。

ア ポートセールス部会開催及び施設計画部会へ参加

- ・ 第1回ポートセールス部会の開催

日 程 5月15日(木)

- 議 題 ① 令和6年度 活動状況について
 ② 令和7年度 事業計画について
 ③ その他(年間スケジュール等)

- ・ 第2回ポートセールス部会の開催

日 程 10月20日(月)

- 議 題 ① 令和7年度 上半期の活動状況について
 ② 海外ポートセールス出張報告
 ③ 国際物流総合展出展報告
 ④ その他(年間スケジュール実施予定確認 他)

- ・ 第3回ポートセールス部会の開催

日 程 令和8年3月13日(金)

- 議 題 ① 令和7年度 事業報告書(案)及び収支決算書(案)の承認
 ② 川崎港を取り巻くマーケット状況について
 ③ 令和8年度 事業計画(案)及び収支予算(案)の承認
 ④ その他(韓国出張)

- ・ 第1回施設計画部会へ参加
 - 日 程 5月22日（木）
 - 議 題 ① ガントリークレーンの仕様について
 - ② その他・意見交換
- ・ 第2回施設計画部会へ参加
 - 日 程 令和8年2月17日（火）
 - 議 題 ① コンテナターミナルCレーンのRTG化について
 - ② その他・意見交換

イ 国内ポートセールスの実施

- ・ 食品物流に特化した国際物流総合展という国際展示会に川崎港戦略港湾推進協議会ポートセールス部会として出展し、約200名の方々と面談し、また200部の川崎港パンフレットを配布した。
- ・ 輸出貨物獲得に向けた取組み
 - 手厚くした輸出貨物補助金制度を利用した輸出顧客獲得
 - 自動車関連の輸出貨物取扱獲得に向けて、川崎港としてスバル北米向けCKDの大井ふ頭經由北米向け川崎港受け舢舨輸送を開始
 - 中古自動車、自動車部品関連、危険品タンクコンテナの取り込み
- ・ 新規荷主の取り扱い拡大
 - 家電、アパレル、日用雑貨など幅広い品目をターゲットとする。

ウ 友好船社対応

- ・ S I T Cとの連携強化（6月、3月）
 - S I T C上海、青島事務所を訪問（7月、10月）
- ・ ONE、ワンハイ、南星海運ジャパンとの定期交流
 - （5月～11月、3月、他）

エ 海外ポートセールス活動

令和7年度活動計画の中で、ポートセールス部会の活動を中心として、7月に上海S I T C本社訪問、青島市へのポートセールス、インドネシア・ジャカルタへのY K I Pセミナーへの参加、令和8年3月には大韓民国への船会社表敬訪問を実施し、7月には港湾局で友好港であるダナン港への表敬訪問を実施。

- ・ 中華人民共和国 上海市への訪問
 - 実施日 6月30日（月）～7月2日（水）（2泊3日）
 - 出張者 川崎港戦略港湾推進協議会会長
 - 川崎港振興協会会長
 - 川崎港戦略港湾推進協議会ポートセールス部会長
 - 川崎市港湾局長
 - 川崎市港湾局 担当係長

訪問先 S I T C 上海本社、太倉港ターミナル、上海青旅東洋物流
近鉄国際物流、S I T C 太倉

- ・インドネシア・ジャカルタ訪問
(Y K I P の「横浜川崎港湾セミナー I N ジャカルタ」インドネシアセミナーへ共同参加)
実施日 7 月 1 6 日 (水) ~ 7 月 1 9 日 (土)
出張者 ポートセールス部会 委員 2 名
訪問先 ジャカルタ日系顧客数社、その他セミナー参加企業との意見交換
- ・煙台、青島地域
中華人民共和国 青島市へのポートセールス
実施日: 9 月 1 5 日 (月・祝) ~ 9 月 1 7 日 (水) (2 泊 3 日)
訪問先: 青島市日本人会定例会議出席 (現地日系企業トップの方々への川崎港 P R) 青島港黄島ターミナル視察、N X 青島支店、日水有限公司、中外運一日新国際貨物有限公司青島分公司
出張者: 川崎港振興協会、川崎港運協会 2 名、
川崎市港湾局担当係長
- ・中華人民共和国 青島ハイセンスへの表敬訪問
実施日: 1 0 月 2 9 日 (水) ~ 1 0 月 3 1 日 (金) (2 泊 3 日)
訪問先: 青島市ハイセンス 青島 S I T C、青島港黄島ターミナル視察
ハイセンス本社、S I T C ロジスティクス、伊藤忠ロジスティクス、日本トランスシティ
出張者: 川崎市港湾局 3 名
- ・大韓民国
ソウルへのポートセールス
実施日: 令和 8 年 3 月 1 5 日 (日) ~ 3 月 1 7 日 (火) (2 泊 3 日)
訪問先: 南星海運、東進商運、J E T R O ソウル事務所
日本商工会議所韓国事務所、N X 韓国ソウル本社、
出張者: 川崎港運協会 2 名、川崎港振興協会、
川崎市港湾局 2 名

(2) 横浜川崎国際港湾株式会社に関する事業

国際コンテナ戦略港湾政策に基づき設立された横浜川崎国際港湾株式会社の川崎事業部と連携し、川崎港戦略港湾推進協議会と共に協力して川崎港の更なる発展を図った。7 月 1 7 日にインドネシアで開催された「横浜川崎港湾セミナー I N ジャカルタ」に川崎港として共同開催の形で参加した。

(3) 京浜 3 港広域連携に関する事業

- ・毎年行われている港湾振興協会等事務連絡会において、横浜・東京各港の振興協

会と情報交換を行った。（１１月６日（木）・１１月７日（金）神戸港にて開催）

- ・横浜港振興協会との意見交換会（５月１６日（金）・令和８年１月２０日（火））

（４）川崎港振興協会独自のポートセールスに関する事業

荷主企業及び船会社、フォワーダー等物流企業を訪問し、コンテナターミナルの更なる発展に向けて情報収集及び川崎港利用の誘致セールスを行った。

（５）クルーズ客船誘致に関する事業（インバウンド等誘客に関する事業）

川崎港の利用促進につながる観光事業の一環として、クルーズ客船誘致事業の展開方法等を模索するため、１１月１８日（火）～１１月１９日（水）に仙台塩竈港を訪問し、現在の仙台塩竈港の状況、及びクルーズ船誘致に関する業務について、塩竈港のターミナルオペレーターであるNX仙台塩竈港運(株)との情報交換を行った。

３．初入港船歓迎行事

川崎港に初入港する船舶の乗組員に記念品等を贈呈し、歓迎の意を表することにより、川崎港をPRした。令和７年度は、合計で７隻の外航船が初入港した。

４月	１隻	８月	０隻	１２月	１隻
５月	１隻	９月	０隻	１月	０隻
６月	１隻	１０月	０隻	２月	０隻
７月	２隻	１１月	０隻	３月	１隻

４．国際交流事業（友好港、友好都市との交流事業）

７月２２日（火）～７月２５日（金）までの日程で、ポートセールス部会の活動の一環として、友好港であるダナン港への表敬訪問を川崎市港湾局長以下３名で行った。

５．「川崎港便覧」の製作・販売

川崎港港域内の港湾施設、立地企業名等を記した地図に、行政機関、施設使用料、統計資料等を掲載した川崎港便覧を製作し、ポートセールスに使用するほか、会員、川崎港利用者等に頒布した。

＜川崎港便覧２０２５－２０２６年版＞

発行日 ８月１日（金）

発行部数 日本語版 ３，０００部／英語版 ３００部

６．その他の振興事業

- ・イベント出展

川崎港の魅力を発信し、認知度の向上を図るため、下記イベントへブース出展して

オリジナルグッズ販売等を行った。

【参加イベント】

8月 9日（土） 川崎フロンターレイベント【海豚（ふろん太）の日】
10月18日（土） 多摩区民祭

・広報について

川崎港の振興及び当協会の事業を広報するため、日刊紙、業界紙及び地域情報誌等に情報を提供した。

【情報提供先】

7月20日 日本海事新聞「海の日記念特集号」コンテナ物流・港湾編
8月 1日 タウンニュース川崎区・幸区版「暑中見舞い名刺広告」
1月 1日 タウンニュース川崎区・幸区版「元旦号年賀名刺広告」
1月 5日 日本海事新聞「新年特集号」コンテナ物流・港湾編

【公益目的事業—2】

——港湾施設を核に、市民に開かれた港づくりの推進を
図ることと併せて港湾の利用促進を図る事業——

1. 市民と港を結ぶ事業

川崎港の役割及び海事思想について市民の理解を深めるとともに、川崎マリエンの利用を促進するため、令和7年度は次の事業を実施した。

また、各事業を実施するに当たってアンケート等を行い、事業効果を確認して、その後の事業の参考とした。

（1）第52回川崎みなと祭りの開催

川崎港への市民及び港湾関係者の理解を深め、川崎港に対する親近感を高める機会を提供するため、「みんなの川崎港」をテーマに関係機関・団体等と連携、協力して、「第52回川崎みなと祭り」を開催した。

7月の「親子海釣り教室」を皮切りに、年間を通して海と触れ合うイベントを実施するとともに、10月のメインイベントでは、多彩な内容のイベントを実施するとともに、日本食肉流通センターの『ちくさんフードフェア』との同時開催で活気のあるお祭りとなった。

【メインイベント】

・開催日 10月11日（土）・12日（日）
来場者 159,000人

【年間イベント】

・親子海釣り教室（7月21日／参加人数44人）
・川崎港クルーズ（10月11日・12日／参加人数214人）
・はだし運動会（10月11日／参加人数22人）
・川崎港見学ツアー【特定校】（11月10日・12月16日／参加人数159人）

(2) 夜桜のライトアップ

桜の開花時期である3月下旬から、東扇島中公園の桜のライトアップを行い、訪れる市民にお花見の場所を提供した。

(3) 夏休み工作教室の開催

夏休み子どもたちに向けて、専門家によるボトルシップ工作教室を開催した。

・開催日 8月16日(土)

参加者 50人

(4) 中公園を花で飾ろう

東扇島中公園のベンチ横園路脇のスペースを活用して作った花壇に、市民参加による花苗を植えるイベントを行った。

① 開催日 7月20日(日)

参加者 74人

② 開催日 令和8年3月15日(日)

参加者 34人

(5) マリエン納涼祭の開催

川崎港運協会、川崎海事広報協会、川崎港湾福利厚生協会、東扇島協議会の協賛で、中公園キャンプ場を使用し、射的、ヨーヨー釣りなどの縁日を楽しんでもらい、川崎マリエン展望室からの夕焼けを見学後、東扇島北公園浮栈橋より納涼船に乗船し、川崎市内在住及び東扇島内企業在勤者及びその家族が川崎港の夜景を楽しみながら納涼気分を味わう納涼祭を開催した。

・開催日 8月22日(金)

参加者 136人

(6) あそびの日の開催

川崎マリエン各種施設を団体や組織に利用してもらい、子どもたちを対象にマリエンの周知と今後の利用促進を図るため、(一社)川崎市子ども会連盟と協力し、川崎マリエンあそびの日を9月7日に開催した。今年度は川崎市教育委員会の後援も取り付け、各小学校に案内を配るなど集客にも力を入れた。

・実施日 9月7日(日)

参加者 1,100人

(7) ふれあい移動動物園の開催

中公園のキャンプ場スペースを利用し、来園者による小動物とのふれあい体験を目的としたふれあい移動動物園をあそびの日と同日開催した。

・実施日 9月7日(日)

参加者 1,100人

(8) 季節の工作教室の開催

季節感のあるオリジナルアイテムを製作する工作教室を開催した。

令和7年度は、アクリル棒にカラフルなテープを貼ってくるくる回すとシャボン玉のように見える「レインボースティック」(ハロウィンバージョン)を作成する30分の教室を5回(1回定員20人)行った。

・開催日 9月7日(日)(あそびの日 同時開催)

参加者 100人

(9) 野鳥や樹木の保護・観察

川崎港の緑と野鳥が共存する貴重な環境である川崎マリエン及び隣接する東扇島中公園において、市民参加による「野鳥及び樹木の観察会」を実施した。

・実施日 令和8年2月7日（土）

参加者 13人

(10) 樹木の名木板取付ワークショップ

環境保護への関心を高めるため、川崎マリエン及び東扇島中公園に植樹されている樹木の名木板を製作し取り付けるワークショップを開催した。

・実施日 令和8年2月7日（土）

参加者 13人

(11) スポーツの日

障がいがある人となない人が交流するスポーツの日として、ボッチャの体験教室を開催した。

・実施日 11月15日（土）

参加者 14人

(12) 初日の出観賞会の開催

令和7年度は、大規模修繕による展望室からの眺望への影響を鑑み実施を見送った。

(13) 写真教室の開催

令和7年度は、大規模修繕による展望室の眺望への影響から実施を見送った。

(14) 冬の芋煮会

東扇島中公園バーベキュー場で野鳥樹木観察会と同時開催で芋煮会を開催した。

・開催日 令和8年2月7日（土）

参加者 4組20名（当日1組欠席）

(15) 展示の充実

川崎港の統計データパネルを更新する等、川崎マリエンにおける展示の充実を図ることにより、タワー棟10階展望室、交流棟2階マリエンプラザ、1階コミュニティホールへの回遊性を高め、川崎マリエンの魅力度の向上を図った。

(16) フリースペースの活用

川崎マリエン交流棟1階のコミュニティホールを市民グループ等の絵画・写真等の展示スペースとして利用できることをブログやチラシなどにより発信するとともに、年間を通じてミニチュアカーの展示を継続し、自動車の輸出港としてのアピールを行った。

また、ボトルシップ工作教室指導者養成コースの作品を常設展示し、令和8年3月14日（土）～21日（土）にはボトルシップ工作教室の生徒作品もマリエンフリースペースで展示した。

さらに、「川崎港の埋め立ての歴史」や「川崎港の昔と今」、「浅野総一郎物語」等の川崎港にまつわる資料の展示を川崎市港湾局の提供のもと、行った。

(17) マリエン映画観賞会

マリエンシアターで小学生以下の子供とその保護者を対象に、夏季と春季に観賞会を開催した。

① 上映日 7月19日(土)

上映作品 「映画 らくだい魔女 フウカと闇の魔女」

来場者 49人

② 上映日 令和8年3月15日(日)

上映作品 「映画 すみっこぐらし ツギハギ工場のふしぎなコ」

来場者 42人

(18) パブリックビューイングの開催

令和7年度は、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックのテレビ放送をマリエンシアターのスクリーンで令和8年2月17日、19日、20日に発信した。

(19) 観光客の誘致

一般社団法人川崎市観光協会の開催する工場夜景ツアーと連携するなど、一般財団法人夜景コンベンション・ビューローが主宰する「日本夜景遺産」に認定された川崎マリエン展望室等を観光名所として、国内外の観光客や修学旅行生に向けて情報発信を行った。

(20) 展望呈茶会の開催

令和7年度は、大規模修繕による展望室の眺望への影響から実施を見送った。

(21) 第15回川崎マリエン写真・児童絵画コンクールの開催

川崎港を身近に感じてもらい、川崎港に接する機会の創出のために京浜臨海部を題材とした作品のコンクールを開催した。

※入賞作品の展示は、令和8年3月15日(日)～3月22日(日)にマリエンフリースペースで行い、令和8年4月10日(金)～23日(木)には川崎アゼリアにて行う予定。また、全応募者展示については令和8年8月29日(土)～30日(日)に川崎マリエン体育館にて行う予定。

・応募資格 児童絵画の部は小学生以下、写真の部は制限なし

・応募期間 11月1日(土)～令和8年1月31日(土)

・応募点数 写真79点、絵画49点

・選考会 令和8年2月17日(火)

・表彰式 令和8年3月20日(祝)

(22) 川崎マリエンのイルミネーション装飾及びライトアップの実施

クリスマスシーズンにイルミネーション装飾を実施するとともに、川崎市と協力して啓発キャンペーンの際には業務棟・交流棟壁面のライトアップを実施した。

① 自閉症啓発・発達障害啓発として、4月2日(水)から4月8日(火)までブルーライトアップを実施

② 世界自殺予防デーに伴い、9月10日(水)から16日(火)にグリーンライトアップを実施

③ 世界メンタルヘルスデーに伴い、10月14日(火)から10月16日(木)にシルバーライトアップを実施

- ④ 11月27日(木)から12月25日(木)まで、クリスマスイルミネーションを点灯

(23) 自転車の安全運転啓発への協力

東扇島中公園の貸自転車利用者に対して、自転車の安全で安心な運転技術の向上を目的に、警視庁より発行されているリーフレットを配布し、安全な自転車利用の啓発に努めた。

(24) 川崎港紹介資料の制作

市内小学校の社会科見学で来館する児童等の理解を促進するための副教材「川崎市ぐるっと探検」を制作し、配布を行った。

来館校数 79校

来館生徒数 8,941人

(25) 海苔づくり体験教室の開催

体験学習施設を利用して、市内の小学生等を対象とした海苔づくり体験教室を川崎港で活動するNPO法人与連携して合計2回開催した。

・開催日 令和8年2月16日(月)・令和8年2月23日(祝)

参加者 99人

(26) わかめ祭りの開催

川崎の海の環境保全の大切さを理解する機会を提供するため、関係団体と連携、協力して、川崎港内で養殖したわかめの種付け体験及び収穫祭を開催した。

種付け体験 実施日 12月20日(土)

収穫祭 実施日 令和8年2月22日(日)

参加者 39人

(27) ニュースポーツ普及活動

ニュースポーツ普及活動の一環として東扇島中公園、体育館において、グラウンドゴルフ、カローリング、ペタンク等の体験会を開催した。

① 開催日 6月7日(ニュースポーツ・ビーチスポーツ体験会として開催)

参加者 58人

② 開催日 9月7日(あそびの日に開催)

参加者 1,100人

③ 開催日 3月15日(ドッジビー、ビーチスポーツ体験会として開催)

参加者 32人

(28) 定期演奏会の開催誘致

川崎マリエン体育館の多目的利用を促進する一環として、演奏会やミニコンサート等を誘致することが効果的と思案し、SNSを活用した広報活動を行ったものの利用に至らなかった。

(29) 川崎マリエン内へ写真撮影スポットの施設整備

マリエンのファン獲得とSNSによる情報拡散を目的として、Instagramフレームを展望室内にて自由に使用できるよう設置している。また、グループでの撮影促進策として、1Fロビー入口の川丸くんパネル横にスマートフォン用の三脚を設置している。

（３０）合宿用施設としての利用

川崎マリエンの施設利用、スポーツ振興を通じて川崎港の振興に寄与するとともに、オリンピックやトップアスリートによる指導・研修を受ける環境を提供し、次世代を担う選手を育成する事業として実施している。

令和７年度は１１月１日（土）から３日（祝）までの３日間、２３歳以下を対象に、ビーチバレー場にてビーチバレー実技の研修、研修室にてコンディショニング等の研修を開催した。個人事情による通い参加もあり、宿泊参加と通い参加の３日間延べのスポーツ合宿参加人数は４０人だった。

（３１）宿泊体験事業の実施

川崎マリエンの特色を発揮し、市民が川崎マリエンに親しむ機会を創出することにより、施設の活性化並びに川崎港及び川崎マリエンの新たな魅力創出につなげるため、青少年育成団体を対象とする研修を実施した。

・実施日 ７月１９日（土）、２０日（日）

参加者 １３７人（２日間）

（３２）ボトルシップ指導者養成講座の開催

ボトルシップを製作する技術をもつ人材を育成する指導者養成講座を開催し、基本から高度な技術まで修得できる養成コースを毎月１回、１年間で１２回開催した。

修了者は、夏休み工作教室での製作指導にその技術を活かしていく。

・参加者 １４人

さらに、ボトルシップ工作教室指導者養成コースの作品を常設展示し、令和８年３月１４日（土）～２１日（土）にはボトルシップ工作教室の生徒作品もマリエンフリースペースで展示した。

（３３）茶道教室の開催

和室を利用した伝統とおもてなしの心を体験する茶道教室を、裏千家淡交会川崎支部の協力により開催した。また、教室の開催に先駆け、無料体験会を実施した。

・茶道教室

実施日 ６月１１日（水）～令和８年３月２５日（水）（全２０回）

参加者 ６人

・無料体験会

実施日 ５月２１日（水）

参加者 １１人

（３４）スポーツ教室及び大会の開催によるスポーツの振興

川崎マリエンの体育館、テニスコート、ビーチバレー場、トレーニング室を利用して、各種スポーツの競技人口の拡大と併せて施設の利用を促進するため、教室及び大会を開催した。

・夜間テニス教室／春の部 ５月８日（木）～６月５日実施（木）

全８回 参加者 １５３人

・夜間テニス教室／秋の部 ９月８日（月）～１０月３０日実施（木）

全８回 参加者 １４４人

・夜間バドミントン教室／夏の部 ６月３日（火）～７月２２日（火）実施

- 全8回 参加者 73人
- ・夜間バドミントン教室／秋の部 10月21日（火）～12月9日（火）実施
全8回 参加者 88人
- ・昼テニススクール 4月9日（水）～令和8年3月18日（水）実施
全25回 参加者 59人
- ・昼テニス大会 5月13日（火）～令和8年3月10日（火）実施
全5回 参加者 38人
- ・日帰り研修／ビーチバレーボール教室
6月15日（月） 参加者 27人
11月1日（土） 参加者 21人
- ・日帰り研修／ビーチテニス教室
11月24日（火） 参加者 15人
12月21日（月） 参加者 26人
- ・トレーニング教室 5月15日（金）～10月16日（金）実施
全5回 参加者 16人

（35）フットサル教室の開催

体育館にて「フットサル教室」を原則、月2回開催し、128人が参加した。

（36）健康体操・ストレッチ教室の開催

ビーチコートや研修室を利用し、フィットネスやストレッチ等の健康維持や体力増進を目的とした教室を開催した。

- ・開催日 10月22日
参加者 13人

（37）ヨガ教室の開催

体育館にて新たに参加者の健康維持と増進に向けたヨガ教室を開催した。

- ・開催日 5月17日 参加者 17人
11月22日 参加者 16人

（38）夏休み川崎港見学会の開催

川崎港の役割、重要性等の理解を深める目的で、夏休みの期間を利用して、小学生とその保護者を対象に港湾局の巡視船「かもめ」による港内見学やプリンス海運株式会社の自動車専用船の船内見学等を行う見学会を開催した。

1回目	7月23日	9組	18人
2回目	7月30日	※津波警報の発令により開催中止	
3回目	8月6日	7組	14人

（39）川崎港魅力体験ツアーの実施

市民を対象に、港湾施設や市民利用施設を見学するとともに、夜間も活動が続ける川崎港と臨海部の工場群を海上から視察し、役割や重要性等を理解しながら、川崎港の魅力を体験するツアーを区役所との共催で3回開催した。

1 回目	1 1 月 5 日	宮前区役所	2 5 人
2 回目	1 1 月 2 4 日	川崎区役所	2 3 人
3 回目	3 月 1 1 日	幸区役所	4 0 人

(40) 親子釣り教室の開催

子供たちが釣りの楽しさや海洋環境の大切さを学ぶことを目的に、東扇島西公園において「親子釣り教室」の開催を予定していたが、当日早朝からの荒天により、安全面を最優先し、開催を見合わせた。

・開催予定日 6月15日（日）

(41) 港内案内事業の実施

市民、研究者、事業者等を対象に巡視船を利用して海上から川崎港を案内する業務を当協会が受託し、令和7年度は、合計17回の案内業務を実施し、337人の乗船者に川崎港の歴史、機能、役割、重要性等についての説明を行った。

また、川崎市と連携した東扇島防災浮桟橋の平時利用による港内観光等の試行実施については、年間で12回の利用があった。

(42) 車両の駐車講習会の開催

川崎マリエンの駐車場を活用して、自動車の安全で安心な駐車や車庫入れの技術向上を目的に専門の指導員による講習会を開催した。

・開催日 令和8年1月29日（木）

参加者 7人

(43) 共催・後援等事業の実施

川崎マリエンのビーチバレー場、テニスコートなどのほか、東扇島の市民利用施設の周知、PR、利用促進を図るため、イメージアップ効果のある各種大会を誘致するとともに、各種団体が主催する事業を積極的に共催・後援した。

[共催・後援した主な大会等]

- 1 DEAD POP FESTIVAL 2025
- 2 2025年度川崎マリエンジュニア育成テニス教室
- 3 第32回関東大学ビーチバレーボール選手権大会
- 4 アクティオ杯 ビーチバレージャパンカレッジ2025
第37回全日本ビーチバレーボール大学選手権大会
- 5 川崎ビーチバレー in かわさきの浜
(男女2人制・男女混合4人制一般大会、ビーチモルック大会)
- 6 第139回川崎市実業団対抗テニストーナメント（第72回リーグ）大会
- 7 バイクナビ・グランプリ2025 第26回 川崎マリンエンデューロ
- 8 第39回全日本ビーチバレーボール男子選手権大会神奈川県予選
第36回全日本ビーチバレーボール女子選手権大会神奈川県予選
- 9 第18回川崎港トライアスロン in 東扇島 兼
第12回川崎キッズ・ジュニアトライアスロン大会
- 10 川崎市杯 J V A 第17回ビーチバレーボール大会
- 11 第25回神奈川県ビーチバレーボール選手権秋季大会

- 12 バイクナビ・グランプリ2025 第27回 川崎マリンエンデューロ
- 13 第140回川崎市実業団対抗テニストーナメント（第73回リーグ）大会
- 14 第3回カーフマン・シグネチャーデュアスロン in 東扇島2026
日本学生デュアスロン選手権・JT関東ブロックデュアスロン選手権
- 15 ジャパン ビーチバレーボールツアー2025
アンダーエイジU20チャンピオンシップ川崎大会
- 16 勇竿主催 第20回釣り大会&抽選会
- 17 JBVチャレンジャーシリーズ2026
川崎大会第1戦～第4戦 OCEAN BELLE CUP

（44）冬の星座観察会の開催

川崎マリエン中公園を会場に、かわさき宙と緑の科学館と連携し、移動式望遠鏡を使って冬の星座を学習する「ほしぞら観察会」を開催した。

・実施日 12月5日（金）

参加者 45人

（45）船舶情報表示板の設置

川崎港を行き交う船舶の船名等の情報をモニターに表示し、港の活動をリアルタイムで見ること、港湾の仕事への関心をもち理解を深めてもらう船舶情報表示板を3月に設置した。 ※公開は令和8年4月より

（46）マリエンライブラリーの設置

川崎マリエン9階のリフレッシュルームに、子どもたちにもわかりやすい海をテーマにした図鑑や書籍、絵本を自由に閲覧できるライブラリーを新たに設置し、憩いの空間を創出した。

2. 港湾及び海事関係者の福利厚生事業

川崎マリエンのスポーツ施設、会議室、シャワー設備等や東扇島中公園を港湾及び海事関係者の利用に供するほか、様々な機能を活用して実施する各種スポーツ教室及び大会、ニュースポーツ普及事業、映画上映会等を開催し、川崎臨海部で働く人々のリフレッシュ、健康づくり、交流の場とすることにより、福利厚生の充実を図った。

3. 川崎市港湾振興会館並びに東扇島中公園の管理運営

川崎マリエン並びに東扇島中公園の指定管理者として、設置目的に従い、体育館、会議室・研修室、展望室、テニスコート、ビーチバレー場、トレーニング室、バーベキュー場、キャンプ場、駐車場等の市民利用施設・設備及び港湾事務室を適切に管理・運営するとともに、快適な環境及び魅力ある施設の運営により利用者の拡大に努めた。

（1）体育館

バスケットやバレーボール、バトミントン以外では、インドアプレーン（模型飛行機）、チアダンス・ジャズダンスなどのその他の利用目的にも対応し貸出しを行った。

また、フットサルでの利用も継続し、教室も実施した。

毎週木曜日及び専用利用のない日は、市民開放として貸し出した。

(2) 会議室・研修室

利用促進を図るため、会議室及び研修室において使用料の半額化を継続した。

また、ドラマ等の撮影場所として貸し出し、川崎マリエンのPRに努め、知名度アップに貢献した。

さらに、NTCの活動強化に資するため、会議室1室を通年で貸し出し、利用の促進と使用料収入増を図った。

(3) 展望室

展望室と望遠鏡の無料化を継続するとともに、ジオラマにより川崎港と周辺地域の様子を具体的に表示し、展望室からの眺望と併せて利用者の方々に楽しんで頂いた。また、ホワイトボードに季節に応じたキャラクターのマグネット等を設置し、来館者がより楽しめるような演出を施した。

(4) リフレッシュルームの活用

交流棟9階にて運用を開始したリフレッシュルームを活用し、来館者の休息や食事場所として提供する他、クリスマスの時期には室内にイルミネーションの装飾を施すなど季節の装飾を行い、集客増を行った。

(5) テニスコート

利用者からの要望に適宜対応した備品管理や、HPやSNSでクローズ情報を発信し、また、川崎市と連携して日よけとベンチを設置して、利用者の利便性の向上を図った。

(6) ビーチバレー場

ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点として指定選手やトップアスリートの練習会場としての利用の他、ビーチバレーの関係団体と連携を図り、大会・練習会・講習会、ビーチフィットネス・スポーツ合宿、川崎みなと祭り来場者への体験会等を開催し、ビーチスポーツの普及に貢献した。

(7) トレーニング室

利用者がいつでも初回説明会を受けられるようにするなど、タワー棟9階のトレーニング室利用に向けた適切な管理運営を行った。

また、交流棟2階のトレーニング室は、ビーチバレーアスリートのトレーニング場所として利用してもらうとともに、適宜備品管理を行い、利用者の利便性の向上を図り、ビーチスポーツの普及に貢献した。

(8) 会議室・港湾事務室の環境美化

会議室・港湾事務室の環境美化を図ることにより、清潔で快適な利用環境を整えた。

(9) 東扇島中公園の管理運営

川崎マリエンに隣接する東扇島中公園の管理運営として、樹木剪定、芝刈、除草及び害虫駆除等を定期的に行い、公園利用者の利便性の向上に努め適切に管理運営を行った。

(10) 桜の森とコミュニティスペースの活用

川崎マリエン敷地内にある桜の森や東扇島中公園に多種多様な樹木が植樹されていることから、これらの場所を市民が季節を感じ憩える場所とするためにテーブル・

椅子を提供するなど、利用者の利便性向上のために適切な管理を行った。

(1 1) 駐車場

管理運営を専門業者に委託し、より効率的な運営を行った。また、定期券や回数券の発行により、島内各社の建物更新工事に伴う駐車場需要に対応した。

(1 2) 魅力度の向上

交流棟受付及びロビー等で、職員自らが「春」「イースター」「端午の節句」「七夕」「夏休み」「ハロウィン」「クリスマス」「お正月」「雛祭り」等の季節感を演出する飾り付けを行った。

(1 3) 利便性の向上

① 施設利用料のキャッシュレス決済の導入

施設利用料等のキャッシュレス決済に対応し、利用者の利便性の向上を図った。

② サービス向上委員会及び管理運営個別業務自己評価点検委員会の開催

川崎マリエンのより快適な環境及び魅力ある施設の利用者サービス向上を図るため、毎月1回受託業者間の情報提供や意見交換を行った。また、各受託者が自己評価点検シートにより業務の点検及び評価を行った。

③ 会館入居者連絡会議の開催

川崎マリエン入居者への情報の提供や意見交換の場として「会館入居者連絡会議」を3回開催した。

④ 川崎マリエン利用者懇談会の開催

川崎マリエンの運営及び事業について、市民及び利用者の意見を反映させるため、12団体から推薦された委員による年2回の川崎マリエン利用者懇談会を開催した。第1回を6月19日（木）、第2回を令和8年2月27日（金）に開催した。なお第2回は、川崎市巡視船「かもめ」による川崎港視察を行った。

・構成団体名

川崎区連合町内会	川崎区スポーツ推進委員会
川崎市教育委員会	(公財) 川崎市スポーツ協会
川崎市バレーボール協会	川崎市テニス協会
川崎マリエン・ボトルシップ会	(一財) 川崎港湾福利厚生協会
東扇島協議会	(公財) 日本バレーボール協会
川崎市港湾局川崎港管理センター	(公社) 川崎港振興協会

⑤ 事業モニタリングの実施

施設の利便性や利用率向上の為に、アンケートや受付に直接寄せられる利用者の意見を取り入れ、改善を図るよう努めた。また、月に1回、施設内の用具等の点検を行い、利便性及び安全性の確保に努めた。

⑥ マリエン利用者への食の充実

交流棟1階での冷凍食品の販売や市内事業者による弁当の販売は、事業者や販売店の都合により終了したが、隣接するコンビニエンスストアに対してイベントを通じた弁当販売の交渉や、新たな市内飲食店事業者による弁当の販売誘致やイベントの開催に合わせてキッチンカーを誘致するなど、施設利用者の食の充実とサービス

向上を図った。

⑦ 無料Wi-Fi の提供

会議室及び研修室等において、携帯電話、タブレット等によるネット環境を活用した会議や多目的な利用へのサービスの向上を図るため無料Wi-Fiの環境を用意した。

⑧ 外国人来館者への対応

案内物・掲示物に英中韓の3か国語を標記するとともに、マリエン受付に翻訳デバイス（POCKETALK）を用意し、外国人来館者への対応を行うなど、サービスの向上を図った。

（14）安全性の向上

施設の案内表示、備品の保守管理を適切に行い、利用者の安全性の向上に努めた。

マリエン施設の利用者数（前年度との比較）

令和7年度		令和6年度	
295,610人		293,512人	
・会議室・研修室	25,245人	・会議室・研修室	24,762人
・展望室	57,612人	・展望室	62,356人
・テニスコート	22,593人	・テニスコート	23,025人
・ビーチバレー場	23,561人	・ビーチバレー場	25,443人
・体育館	10,849人	・体育館	10,685人
・川崎みなと祭り（メインイベント）		・川崎みなと祭り（メインイベント）	
マリエン会場	126,000人	マリエン会場	118,000人
・その他（トレーニング室他）	29,750人	・その他（トレーニング室他）	29,241人

4. インターネットサイト等による情報提供事業

川崎港の振興と宣伝及び当協会の事業、イベント等の周知を図るため、市民及び港湾・海事関係者並びに当協会の会員等にホームページ・フェイスブック・Xで随時情報を提供した。

また、マリエンと協会サイトのウェブアクセシビリティへの対応及び英語版による情報の提供を行い、より多くの方がサイトを便利に利用できるよう配慮に努めた。

・ホームページ

公益社団法人川崎港振興協会 <https://www.kawasakiport.or.jp/kyokai/>

川崎マリエン <https://www.kawasakiport.or.jp/>

・フェイスブック

川崎マリエン <https://www.facebook.com/kawasakimarien/>

・X

川丸くん @kawamaru_kun

その他の広報活動事業

川崎港及び川崎マリエンを広報するため東扇島協議会の協力や、川崎市との連携により、かわさき情報プラザへのイベントチラシ配布や下記の広報活動を行った。

- ・かわさきFM 生出演（毎月第4火曜日）
- ・タウンニュース川崎区・幸区版、多摩区・麻生区版、宮前区版、中原区版
広告 掲載6回
- ・タウンニュース イベント告知記事、実施記事
- ・川崎市バス まど上ポスター掲出（11月28日～12月27日）
（令和8年2月27日～3月26日）
- ・かわさき市バスマップ 広告掲載
- ・川崎マリエン館内イベント告知及びポスター掲出（通年）
- ・川崎港湾福利厚生センターにて各教室や写真・児童絵画コンクールの募集案内を
掲示
- ・市政だより、かわさきイベントアプリ、神奈川新聞等の新聞各紙にてイベント
告知（随時）
- ・かわさき情報プラザへのイベントチラシ配布
- ・川崎フロンターレイベント 出店（8月9日）
- ・多摩区民祭 出店（10月18日）

【収益事業－1】

——川崎市施設の管理運営に関する事業——

1. 川崎市港湾振興会館並びに東扇島中公園収益施設の管理運営

川崎マリエン並びに東扇島中公園の指定管理者として、港湾事務所等の収益事業部分やバーベキュー場を川崎マリエン並びに東扇島中公園の設置目的に従って適切に管理運営を行った。

・東扇島中公園内バーベキュー施設及びキャンプ場の管理運営

収益施設として、川崎マリエンに隣接する東扇島中公園内のバーベキュー施設の維持管理、案内、用具点検、有料のゴミ処分サービスの継続や、キャンプエリアの適切な管理・運営を行い、東扇島中公園の市民利用を促進した。

・バーベキュー場とキャンプ場の設備の充実

バーベキュー場の窯等設備の更新、冬季利用者のための防寒幕設置及び中公園キャンプエリアのサイト利用面積の増、焚火実施への対応など、利用者に楽しんでもらえる新たな取組みを行い、利便性と魅力を向上させ、両施設の利用率の向上を図った。

＜バーベキュー場＞

利用区画数 595区画（令和6年度 777区画）

＜キャンプ場＞

利用件数	日帰り	140件（令和6年度	95件）
	宿泊	65件（	86件）

＜無料貸自転車＞

利用件数

5 2 7 件（令和 6 年度 4 8 6 件）

2. 自動販売機設置事業

川崎マリエン、東扇島中公園及び東扇島西公園利用者の利便性の向上を図るため、飲料水等の自動販売機を設置している。

・交流棟	2 台	・業務棟	2 台	・連絡通路	1 台	
・展望室	1 台	・テニスコート	3 台	・西公園	5 台	計 1 4 台

【収益事業—2】

——川崎港関連物品等の頒布事業——

1. 川崎マリエンオリジナルグッズの製作、販売

多くの市民及び事業者に川崎港及び川崎マリエンに親しんでいただくため、マリエンに展示しているホオジロサメの剥製「かわジロー」に因んだサメのグッズの製作及び仕入れを行い、併せて川崎港のシンボルキャラクター「川丸くん」の各種オリジナルグッズ等を製作して、川崎マリエン受付やガシャポンステーションにより販売した。

また、川崎市観光協会と連携し、日本夜景遺産登録を記念した夜景遺産ポストカードの製作や工場夜景クッキー等の仕入れを行い、販売した。

さらに、グッズ販売促進のため、ポスターや看板等による P R を行い、キャンペーンとしておまけをつけるなどし、売り上げ増を図った。

2. 体育館利用者のための消耗品の販売

体育館利用者向けにピンポン球、シャトルコック等、シャワー室利用者向けにシャンプー等を販売し、利便性の向上を図った。

【収益事業—3】

——ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設の管理運営——

川崎マリエンビーチバレーコートがスポーツ庁からナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設に認定されたことを受け、スポーツ庁から業務を受託し、国内トップレベルのビーチバレーボール選手が国内及び国際大会での活躍に向けてトレーニング等を強化できるよう、ビーチバレーコート並びに専用トレーニング室の適切な管理運営を行った。

【共益事業】

——会員を対象にした研修会、講演会の開催及び機関誌の発刊——

1. 会勢

- (1) 会 員 2 6 1 社
- (2) 役 員 1 7 人
 - 会 長 1 人
 - 専務理事 1 人
 - 理 事 1 3 人
 - 監 事 2 人
- (3) 職 員 1 5 人
 - 事務局長（業務課長兼務） 1 人
 - 業務課 5 人
 - ポートセールス推進課 1 人
 - 会館事業課 8 人

2. 総会・理事会

- (1) 通常理事会
 - ・開催日 5 月 2 6 日（月）
 - ・場 所 川崎マリエン 交流棟 3 階 第 1 会議室
 - ・議 題
 - ①令和 6 年度 事業報告について
 - ②令和 6 年度 決算報告及び監査報告について
 - ③役員の選任（案）について
 - ④令和 7 年度 定時総会の招集（案）について
 - ・報告事項 職務執行状況の報告について
- (2) 定時総会
 - ・開催日 6 月 1 3 日（金）
 - ・場 所 川崎日航ホテル 1 1 階 橘楓の間
 - ・議 題
 - ①令和 6 年度 事業報告について
 - ②令和 6 年度 決算報告及び監査報告について
 - ③役員の選任（案）について
 - ・報告事項 令和 7 年度 事業計画及び予算について
- (3) 通常理事会
 - ・開催日 1 1 月 1 4 日（金）
 - ・場 所 川崎マリエン 交流棟 3 階 第 1 会議室
 - ・議 題
 - ①令和 7 年度 上半期事業報告について
 - ②令和 7 年度 中間決算報告について
 - ③会員の入会（案）について
 - ・報告事項 職務執行状況の報告について
- (4) 通常理事会
 - ・開催日 令和 8 年 2 月 1 8 日（水）
 - ・場 所 川崎マリエン 交流棟 3 階 第 1 会議室
 - ・議 題
 - ①令和 8 年度 事業計画（案）について

- ②令和8年度 予算（案）について
- ③資金調達及び設備投資の見込み（案）について
- ④公益目的事業の種類及び内容並びに収益事業等（案）について
- ・報告事項 公益法人の外部理事、外部監事について

3. 川崎港研修会

港湾関係行政機関から講師を招き、会員店社の新入社員を対象に、川崎港における港湾行政について講演するとともに、海上から川崎港を視察し、川崎港についての理解を深めた。

- ・開催日 7月10日（木）
- 参加者 30人
- 演題1 「税関行政について」
講師 横浜税関川崎税関支署 総務課長 藤田 健二 様
- 演題2 「川崎港の概要」
講師 川崎市港湾局港湾経営部経営企画担当課長
三枝 郁夫 様

[乗船研修]

- 参加者 30人
- 内 容 港湾局巡視船「あおぞら」に乗船し、海上から川崎港を視察

4. 川崎市港湾関係事業概要説明会

会員店社が川崎港において事業展開する際の参考となるよう、川崎市港湾局から講師を招き、公共事業、港湾振興事業、将来計画、川崎港の港勢等についての説明会を開催した。

- ・開催日 7月9日（水）
- 参加者 36人
- 内 容 講演 「令和7年度事業概要」
- 講 師 川崎市港湾局港湾経営部整備計画課長 二宮 弘治 様

5. 物流研修会

港湾をとりまく物流の変化に対応し、会員各位の事業発展に資するため、令和7年度は株式会社フジトランスコーポレーション様、プリンス海運株式会社様から講師をお招きし、「川崎港地区からのモーダルシフト」と題して、研修会を開催した。

- ・開催日 令和8年2月12日（木）
- 参加者 57人
- 内 容 講演「川崎港地区からのモーダルシフト」
講師 株式会社フジトランスコーポレーション
東京支店次長 兼 川崎営業所所長 湯浅 公輔 様
プリンス海運株式会社
営業部 取締役部長 田村 隆明 様 / 営業部 顧問 川嶋 重夫 様

6. 「港かわさき」の発刊

川崎港の現状、将来像、物流動向、イベント情報、港湾又は海に係わるエピソード等を掲載した機関誌を発刊し、会員店社に川崎港の最新情報を提供するとともに、市内行政機関、学校、図書館等にも配布を行い、川崎港の役割や魅力等について理解を深める一助とした。

(1) 「港かわさき 76号」

発行日 8月15日

発行部数 800部

【主な内容】

- ・川崎港東扇島水江町地区臨港道路整備事業について
- ・第52回川崎みなと祭りのご案内
- ・【連載】みなとで働く人々 第14回
世界へ車を送り出す港の職人たち 「株式会社ヨコロジ」
- ・【連載】川崎臨海部埋立の歴史 第14回 東扇島ふ頭整備

(2) 「港かわさき 77号」

発行日 令和8年1月16日

発行部数 800部

【主な内容】

- ・年頭のご挨拶
- ・第52回川崎みなと祭り
- ・連載 みなとで働く人々 第15回 「農林水産省 動物検疫所 川崎出張所」
- ・川崎をビーチバレーの聖地に！